

新生児聴覚スクリーニング検査 について



埼玉県健康長寿課母子保健担当

1. 難聴児の早期発見の重要性
2. 新生児聴覚検査実施体制について
 - i. 検査のながれ
 - ii. 公費助成状況・検査実施機関
3. 聴覚検査機器導入費用補助事業

1. 難聴児の早期発見の重要性

- 先天的に難聴のある子どもは、1,000 人に1～2 人の割合で出生。
- 新生児聴覚検査の実施により、早期療育に至る確率は20 倍以上。

※生後3日以内に初回検査を実施、初回検査が要再検査(リファー)の場合、生後1週間以内に確認検査を行うことが推奨されている。また、未受検者に関しては、遅くとも生後1か月までに受検できるよう勧奨を行うことが望ましい。

- 早期療育を開始した場合、聴覚を活用してのコミュニケーションが可能となる確率は3倍以上。

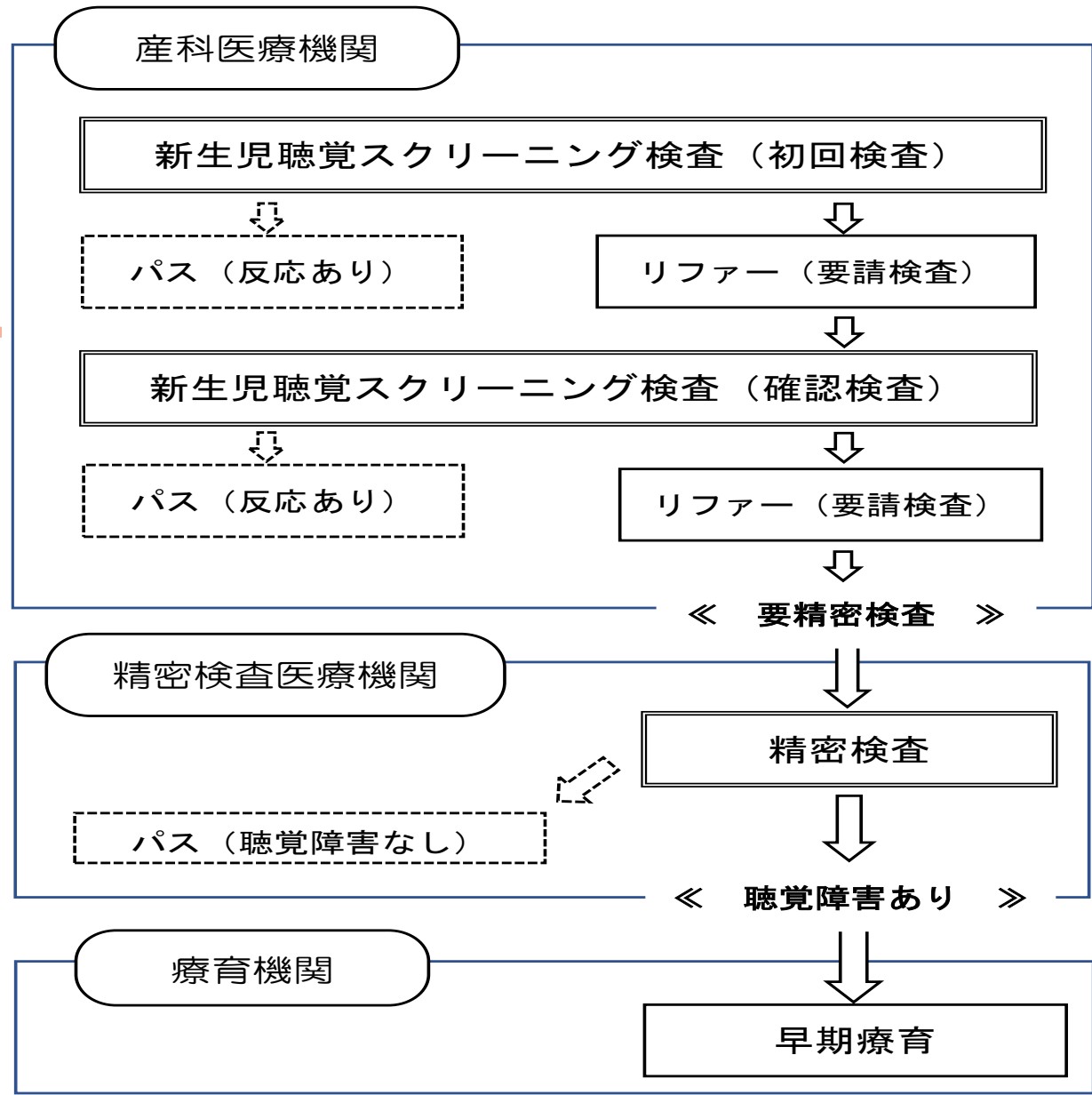
(厚労省研究:「新生児聴覚検査から療育までを遅滞なく円滑に実施するための手引き書」)

2. i 検査のながれ

市町村保健センター

①初回検査結果報告
(助成券請求)

②精密検査結果報告



①

新生児聴覚検査助成券

(1/2)

(医療機関保管用)

母子健康手帳No.			
フリガナ			
母の氏名		児の氏名	
住 所 (住民票のある住所)	Tel ()		
母の生年月日	昭和・平成	年	月 日生 (歳)

次の新生児聴覚検査を依頼します。

結果は、下記及び母子健康手帳へ必ず記入してください。

この助成券により、初回検査でかかった費用から

〇〇円(自動ABR検査)/**〇〇円**(OAE検査)が差し引かれます。

助成額を超えた分については、自己負担となります。

児の生年月日		令和 年 月 日	検査実施月齢	ヵ月
初 回 検 査	検査年月日	令和 年 月 日		
	検査方法	どちらかに ○を付けてください	1. 自動ABR	2. OAE
	結果	右耳	1. パス	2. リファー
再 検 査	検査年月日	令和 年 月 日		
	検査方法	どちらかに ○を付けてください	1. 自動ABR	2. OAE
	結果	右耳	1. パス	2. リファー
精密検査機関紹介先				
市町村への連絡事項				
医療機関所在地				
医療機関名				
医師氏名				

<保護者の方へ>

・初回検査に係る費用の一部について公費で負担するものであり、無料券ではありません。(再検査費用は本人負担になります。)
 ・助成券の額を超えた分について、窓口でお支払いください。
 ・医療機関と相談の上、新生児聴覚検査実施時にご利用ください。
 ・児の耳の聞こえについて市町村から連絡させていただくことがあります。医療機関で助成券を使用することにより、市町村への情報提供について、同意したものとみなします。

発行市町村外へ転出された場合には、この助成券の使用はできません。

3年度新生児聴覚

②

新生児聴覚検査精密検査依頼書

(依頼先) 精密検査医療機関

御中

(依頼元) 新生児聴覚検査実施医療機関

新生児聴覚検査を実施し、結果は下記のとおりです。

精密検査の実施等よろしく申し上げます。

対象児氏名 _____

生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

保護者氏名 _____

保護者住所 _____

新生児聴覚検査結果 (自動ABR・OAE)

初回検査 (年 月 日)	右耳	Pass	・	Refer I (要再検査)
	左耳	Pass	・	Refer I (要再検査)
再検査 (年 月 日)	右耳	Pass	・	Refer II (要精密検査)
	左耳	Pass	・	Refer II (要精密検査)

新生児聴覚検査精密検査報告書

新生児聴覚検査実施医療機関

市町村長

精密検査結果について以下のとおり報告します。

精密検査機関での診察結果

診断名	
検査所見	検査日: _____ 年 _____ 月 _____ 日 検査方法: ABR _____ その他() 検査結果: 右耳 _____ 左耳 _____
今後の方針	(1) 治療開始(治療法:) (2) 療育機関紹介(紹介先:) (3) 経過観察 今後の方針()
備考	

精密検査実施医療機関名 _____

医師氏名 _____

2. ii 新生児聴覚検査公費助成

県内全市町村で初回検査の公費助成を実施

助成額：自動ABR 5,000円(36自治体)／3,000円(27自治体)

○ A E 3,000円(53自治体)／1,500円(10自治体)

契約状況

県が契約権限の委任を受け契約を実施。

委託契約締結状況 (R3. 11月時点)

県医師会所属機関	82機関
その他県内医療機関	2機関
県助産師会所属機関	13機関
県外医療機関	209機関

新生児聴覚検査のながれ

赤ちゃんのきこえとことばの発達のため

ことばの発達には個人差がありますので、気になるときは、かかりつけの医師や市町村保健センターにご相談ください。

- 2～3か月頃**
 - ①話しかけると、アーとかワーと声を出して喜ぶ(またはニコニコする)。
 - ②ラジオの音、テレビの音、コマースャルなどに顔(または眼)を向けることがある。
- 5～6か月頃**
 - ①父母や人の声など他人の声をききわける。
 - ②話しかけたり歌をうたってあげるとじっと顔をみている。
 - ③声をかけると意図的にさっと振り向く。
- 9か月頃**
 - ①外のいろいろな音(車、雨、飛行機など)に関心を示す。
 - ②音楽や歌をうたってあげると手足を動かして喜ぶ。
 - ③ちょっとした物音や、ちょっとでも変わった音がするとハッと向く。
- 12～15か月頃**
 - ①となりの部屋で物音がすると、不思議がって耳を傾けたり、あるいは舌回して教える。
 - ②目、耳、口、その他の身体部位をたずねると指をさす。

(一社)日本耳鼻咽喉科学会 新生児聴覚スクリーニングマニュアルより

新生児聴覚検査のご案内

新生児聴覚検査については、かかりつけの医師、またはお住まいの市町村保健センターにお問い合わせください。

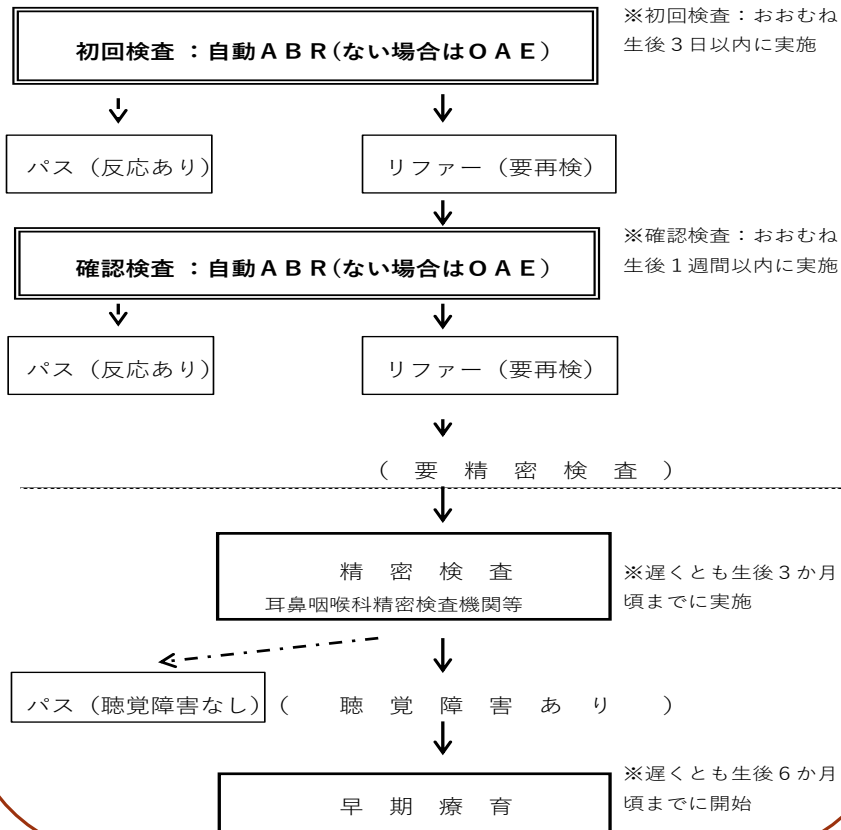
発行 埼玉県保健医療部健康増進課母子保健担当
〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1
TEL 048(830)3561(直通)
埼玉県庁エグゼクティブビル3階

R2.10

3. 新生児聴覚検査機器導入費用補助事業

- 小規模医療機関等が聴覚検査の機器(自動ABR)を購入する際の費用を補助する。
- 補助単価3600千円 補助率:国1/2 県1/2 令和2年度は17機関に助成を実施

新生児聴覚検査の流れ



新生児聴覚検査：新生児期において先天性の聴覚障害の発見を目的として実施する聴覚検査。



自動ABRの例

- 自動ABR(機器価格:240万~480万円)
脳幹からの電氣的反応を調べる検査
- OAE(機器価格:70万~150万円)
内耳からの反響音により判断する検査
※厚生労働省は自動ABRを推奨



県内すべての分娩機関で適切な検査機器を所有

県内出生児全員が検査を受けられる

先天性難聴児(出生1000人に1~2人)の早期発見・早期療育へ